

「人の前に火を灯せば
わが前明るくなるがごとし」





**特別支援学校のたか先生は、
自らも目に障がいがあります。
まったく見えないわけではないのですが、
視野が狭く、暗いところはとても苦手。**

**目の病気が分かったのは、
たか先生が幼稚園に通っていたころ。
「先天性の網膜色素変性症という病気です」
お医者さんに告げられました。
ただ、日常生活には支障が少なかったことから、
小学校、中学校と、地域の学校に通い、
みんなと同じ普通の学校生活を送りました。**





**しかし、実家から離れて
一人暮らしをしていた専門学校生のころ、
状態が急に悪くなりました。**

**食生活の乱れなどが
原因だったのかもしれませんが。**

**有効な治療法はなく、
右目はほとんど見えなくなってしまいました。**

夜は周りがほとんど見えません。
また昼間でも、道を歩いていると
人とよくぶつかりました。
とうとう外に出ることが不安になり、
外出を控えるようになってしまいました。
それでも何とか工夫して
生活していこうと思いましたが、
目の状態は悪くなる一方。
結局、専門学校卒業後に就職した
酒造会社の仕事を続けられなくなりました。



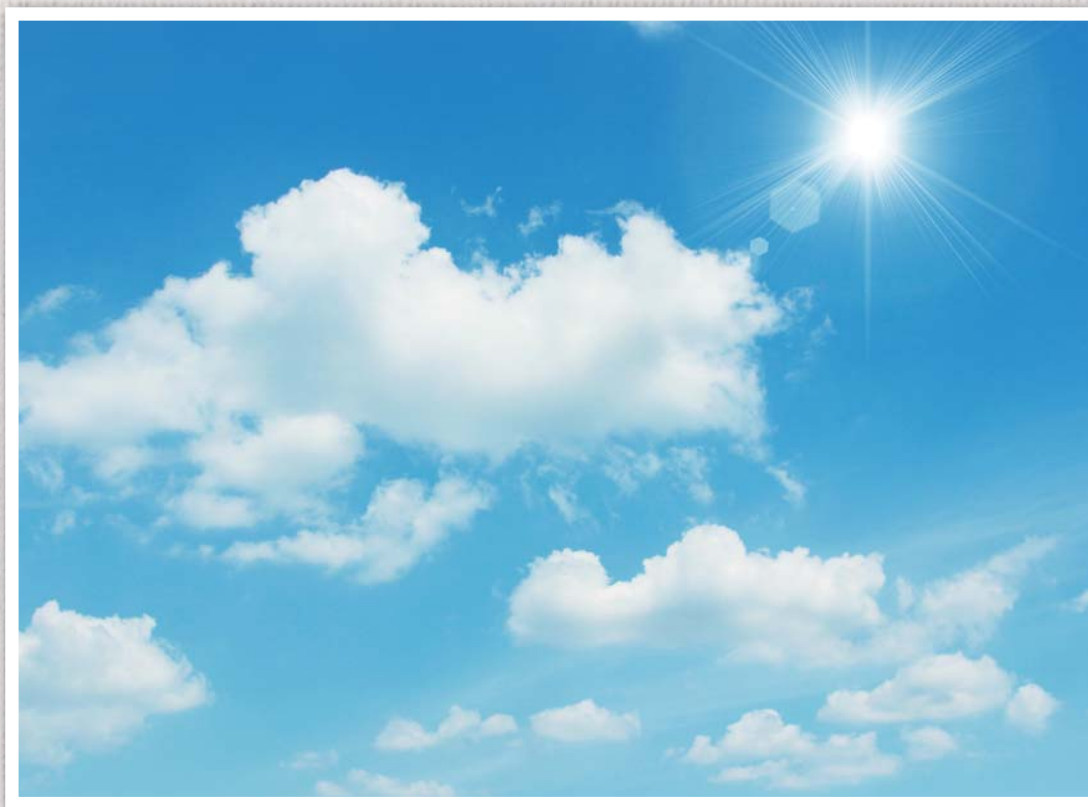


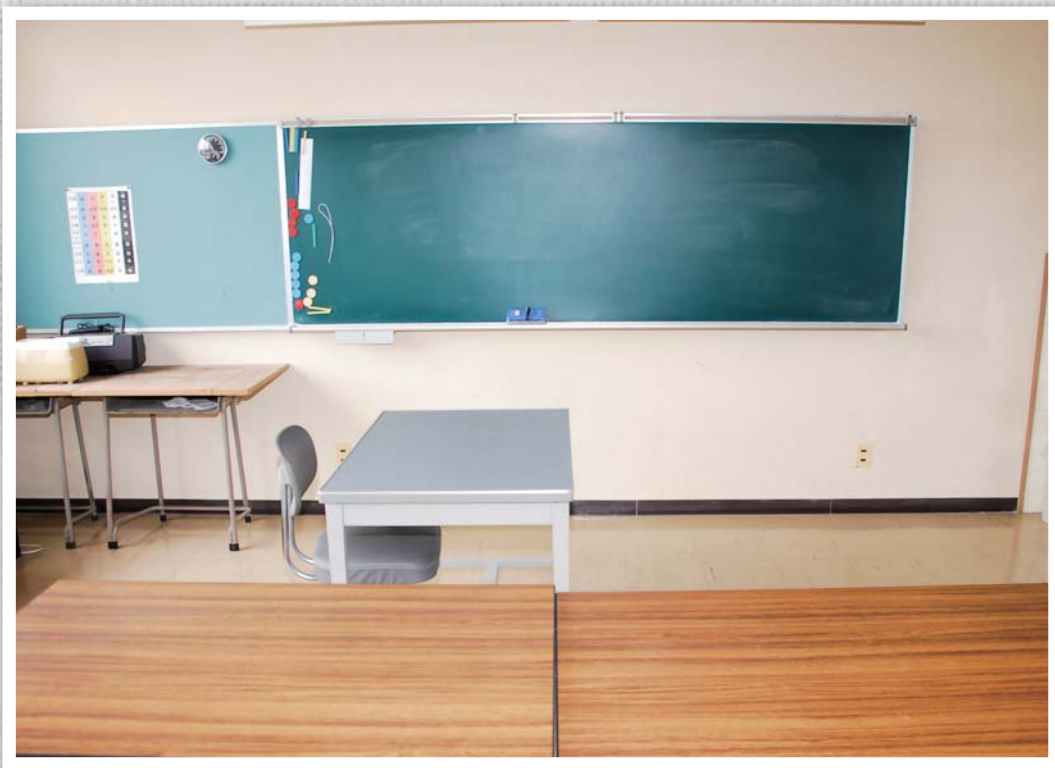
**たか先生は失意のまま実家に帰りましたが、
それを家族が支えてくれました。
お母さんの勧めで盲学校の授業を見学。
まったく目が見えない人だけでなく、
自分のように弱視の生徒も通っていることを
初めて知り、入学を決意しました。
最初は嫌々通っていましたが、
子どもの頃から大嫌いだった勉強にも
励むようになりました。**

**盲学校は、たが先生にとって、
同じ障がいがある人たちと関わる
初めての場となりました。
障がいがありながらも生徒たちを明るく、
時には厳しく導く先生たちの姿を見て
多くのことを学ぶことができました。**

そして

**「目が見える、見えないは、
人間的な魅力に関係ない」
と考えるようになりました。**





**「先生にならないか—」
教師になろうと思ったのは、盲学校から
こう勧められたのがきっかけでした。
一生懸命学ぶ姿が周りから
評価されていたのです。
勉強嫌いだっただどものころを考えると、
先生になるなんて思いもしなかったのですが、
専門の大学を卒業し、
いまは母校で教壇に立っています。**

**「人の前に火を灯せば
わが前明るくなるがごとし」
人のためにしたことが、
自分の幸せにつながるという意味です。
これがたか先生のモットー。
目が見えないことで
これまで多くの悩みを抱えてきましたが、
自分が悩んだ経験が生徒たちを
教えることに生かせると信じて、
前を向いて生きています。**





「視覚障がい」について

なんらかの原因により視機能に障がいがあることにより、全く見えない場合と見えづらい場合とがあります。後者の場合は ▽細部が分からない ▽見える範囲が狭い ▽光がまぶしい ▽特定の色が分かりにくい—などの症状が特徴です。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇ 白杖を使用している人が困っていたら突然体にふれず、前方から簡単な自己紹介をしてから声をかける
- ◇ 「こちら」「あちら」などの指示語は使わず、具体的に説明する
- ◇ その人の「目」になる気持ちで接する

あとがき

「先生になるなんて考えたこともなかった」と打ち明けてくれたたか先生。県外で就職した頃まで結構気ままな生活をされていたようで、確かに人を教える立場になるとは想像されていなかっただろう。大人になってからの目の症状の悪化は、たか先生の人生を大きく変えてしまった。悩んだ日々が続いただろうが、その悩み

をいま、自分の生徒の指導に生かそうとされている。この姿を見て、たか先生に続く生徒が次々に育っていくだろう。(あ)